

## 第1回県立高等学校将来構想審議会 会議録

平成29年8月31日作成

- 1 会議名 第1回県立高等学校将来構想審議会
- 2 開催日時 平成29年7月25日（火）午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 宮城県行政庁舎9階 第一会議室 仙台市青葉区本町3丁目8-1
- 4 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり〈傍聴者0名〉
- 5 概要 以下のとおり
  - (1) 開会
  - (2) 委嘱状の交付
  - (3) あいさつ（高橋教育長）
  - (4) 議事（仮議長：高橋教育長，議長：本図会長）
    - ① 会長及び副会長の選任について
    - ② 諮問（資料1：諮問（写し））
    - ③ 会議の公開について  
資料2に基づき説明（説明者：佐々木教育企画室長）
    - ④ 宮城県の高校教育の現状について  
資料3に基づき説明（説明者：佐々木教育企画室長）
    - ⑤（仮称）第3期県立高校将来構想の策定について  
資料4に基づき説明（説明者：佐々木教育企画室長）
    - ⑥ 高校教育に関する学校調査の実施について  
資料5に基づき説明（説明者：佐々木教育企画室長）
  - (5) その他
  - (6) 閉会

## 1 開 会

### 【司会】

ただいまから、「第1回県立高等学校将来構想審議会」を開催いたします。

## 2 委嘱状の交付

### 【司会】

会議に先立ちまして、本日付で審議会委員をお引き受けいただきました皆様に、「委嘱状」並びに「辞令」の交付をさせていただきます。

本来であれば、お一人ずつお渡しすべきところではありますが、本日は、大変恐縮でございますが、時間の関係上、机上にお配りさせていただいております。委員皆様のお名前の御紹介により、委嘱状の交付に代えさせていただきたいと思っておりますので、恐れ入りますが、お名前をお呼びいたしましたら、その場に御起立いただき、一言御挨拶をいただければと思います。

なお、御挨拶につきましては、時間の関係上、お一人2,3分程度でお願いいたします。それでは、名簿の順番に御紹介させていただきます。

宮城県私立中学高等学校連合会副会長 伊藤 宣子（いとう のぶこ）委員です。

### 【伊藤（宣）委員】

伊藤でございます。よろしくお願い申し上げます。2000年に生まれた子が17歳になっております。もう、高校生ですね。18歳には国民権者になるというところで、第1回目の選挙権を行使した高校生もいることでしょうか。やはり私どもは、15年間の幼児教育から高校3年生までを見ておりますと、まさに教育があったからと、そんな思いでおります。今回この席に座らせていただきましたが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 【司会】

有限会社伊豆沼農産代表取締役 伊藤 秀雄（いとう ひでお）委員です。

### 【伊藤（秀）委員】

皆さんこんにちは。この中で一番遠いのかと思いましたが、登米市からやってきました。伊豆沼農産の伊藤と申します。どんな会社かと言いますと、農業の生産会社でございます。ただ、今巷で言われております6次産業化というものを、30年前からやっております。農産加工それからサービス、レストランです。それからなぜここに私がいるのかなということを考えてみますと、食農教育という分野でビジネスモデルを作っていくたいと考えておまして、また、地元の新田小学校がございまして、そちらはコミュニティスクールの指定を早くからさせていただいております。地域の中の一人として、地元の小学生と一緒に関わらせていただいております。また、登米市では100%の小中

学校をコミュニティスクールにするという目標も掲げており、協力をさせていただきたいと思っております。そしてまた、大内校長先生が隣にいらっしゃいますけれども、登米総合産業高校の評議員もさせていただいております、地元の学校と、それから地域の我々生活者、企業といたしまして、どんな関わりを持っていくのかということ、皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【司会】

宮城県登米総合産業高等学校校長 大内 栄幸（おおうち えいこう）委員です。

#### 【大内委員】

こんにちは。登米総合産業高校の大内でございます。本校は登米市内の旧米谷工業、上沼高校、米山高校とそれから登米高校の商業科が再編統合され平成27年の4月に県内初の総合産業高校として、また公立高校初の福祉科を設置して開校し、おかげさまで今年度完成年度を迎えます。機械科、電気科、情報技術科、この3つの学科が工業系で、それに加えて農業科、商業科、福祉科、合わせて6学科6クラスの学校となります。伊豆沼農産の伊藤社長さんにも委員になっていただいておりますが、登米地域のパートナーシップ会議を組織いたしまして、地域の教育資源を活用しながら実践的な教育活動を積極的に展開して、地域を担う人材育成に努めているところです。地域に根ざした専門学科専門高校の代表として、審議会に参加しているものと思っております。そういう立場からお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【司会】

お隣の片瀬委員でございますが、少々遅れるとの連絡がございましたので、いらっしゃった際に御紹介させていただきたいと思っております。

宮城県中学校長会長 桂島 晃（かつらしま あきら）委員です。

#### 【桂島委員】

改めまして、こんにちは。宮城県中学校長会長の桂島晃でございます。塩竈市立第一中学校に勤務しております。事前に送られてきた資料には、教育に対する思いに触れながら一言挨拶して欲しい旨書いてありましたので、一つだけお話させていただきます。以前、専門学科のある高校、いわゆる職業高校の某校長先生から、宮城県を支えているのは職業高校出身の生徒だから、もっともっと職業高校に関心を持ってくださいというようなことを言われました。また、岩手県立花巻農学校で教鞭をとった宮沢賢治でございますけれども、教え子たちに、「君たちは東京へ行って百姓をするのではない。ひまわりみたいなただ中央を向いて右往左往するような勉強はするな。とにかく、この地域の風土のことだけをよく勉強しろ。」というようなことを言っていたと聞いております。現在、時代背景は違い

ますけれども、宮城の復興を担う人材育成という視点で、義務教育においても高校教育においても、地元の経済や産業のことをよく知り、地元へ貢献したいという志や意欲を高めたいものだと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

**【司会】**

宮城県高等学校長協会会長 加藤 順一（かとう じゅんいち）委員です。

**【加藤委員】**

皆さんこんにちは。高等学校長会の加藤でございます。今仙台一高の校長をしております。私の立場では、全県の高等学校の様子等を踏まえて発言をしていかななくてはいけないのだろうなと思っているのですけれども、今強く感じておりますのは、仙台市地域の置かれている状況とその他の地域の置かれている状況がどんどん違ってきている。その中で地域の子供たちが安心して高等学校教育を受けられる環境を将来に渡ってきちんとしていくというのが、特に県立高校の大きな役割ではないかと感じております。そういった視点で意見を述べていければいいのかなと思っています。仙台市地域にあります本校は本日、夏の学校説明会の1日目だったのですけれども、生徒600名ほど、保護者400名ほど、合わせて1000名ほど今日来てくれています。明日も両方合わせて800名ほどの参加申し込みがあるのですが、そういう学校もある一方で、本当に子供たちが少なくなっているという状況の中で考えていかななくてはならないことは沢山あるのだろうと思っています。そういった問題意識を持って参加させていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

**【司会】**

学校法人朴沢学園仙台大学体育学部准教授 菊地 直子（きくち なおこ）委員です。

**【菊地委員】**

こんにちは。仙台大学の菊地直子と申します。今回はこのような会議に参加させていただきまして大変光栄です。どうぞよろしくお願いいたします。現在は大学に勤務しておりますが、本県のスクールカウンセラーであるとか、スポーツ選手のカウンセラーもですが、スポーツ推進委員会、あと、他県ではあるのですが、いじめの審議会の委員などもやっております。多角的に教育に携わるというか、関わっているような立場をとらせていただいております。私自身は青春時代にスポーツをいっぱいやってきまして、非常に偏った生き方をしていたのですけれども、教育の世界に入って、自分が偏りを直されていくような感覚があるのです。それで、教育現場というのは、一般社会からみると、非常に偏りの少ないところなんだろうと、偏りが少ないことが要求されているんだろうと、考えております。しかしですね、スクールカウンセラーなどをやっておりますと、色々な地域に私

は行くようにしているのですけれども、なんとというか文化的な側面であるとか、加藤先生がおっしゃられたような色々な事情とかそういうことがあって、色々な格差であるとか、悲しさを伴うような何かとかいうものを感じております。私自身は学問というよりは、臨床の場を持っている人間として、できるだけこの会に貢献していければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【司会】

宮城県都市教育長協議会会長 境 直彦（さかい なおひこ）委員です。

#### 【境委員】

皆さんこんにちは。宮城県都市教育長協議会の会長をしております境直彦と申します。自治体の構成である市町村というところの市、宮城県富谷市が入りましたので宮城県は13の市（政令指定都市を除く）があります。その教育委員会の教育長で組織を作っております都市教育長協議会でございます。13年に一回しか会長職は回ってこないのですが、今年度その会長職を仰せつかりまして、この審議会に出席することになりました。よろしくお願ひしたいと思ひます。もう一つは石巻市の教育長を務めております。高校では震災前は石巻市立女子高等学校、石巻市立女子商業高等学校と2つの高校を持っておりましたが、震災による被災によって統合せざるをえなくなり、急遽統合をして、現在は桜坂高等学校、今年の4月にやっと3学年制服が揃ってスタートしたということはニュースでも報道されていたところですよ。仙台一高には負けますが、今日、桜坂高校のオープンキャンパスがございまして、300名弱でしたが、子供たちにそれから先生方と在校生とで桜坂高校の良さを感じ取っていただいている時間帯ではないかと思ひているところでございます。県立高校の構想には大いに関係のある石巻市の市立高校の存在ですが、今後とも検討と協調を高めながら、この会に臨みたいと思ひているところでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 【司会】

宮城県PTA連合会副会長 佐々木 奈緒子（ささき なおこ）委員です。

#### 【佐々木委員】

皆さんこんにちは。私は宮城県PTA連合会から来ました、副会長をしております佐々木奈緒子と申します。そしてまた、平成30年4月には私の子供が通っております大崎市岩出山の上野目小学校が統合になるということで今年ラストランをしているところですよ。まずもって、宮城県PTA連合会では「地域ぐるみで育てよう、心豊かでたくましいみやぎの子」ということをメインテーマとして、子供たちのいじめゼロを目指して活動しているところですよ。例えば高等学校で就職が決まってしまう子、そして例えば大学に行く子も

いて、子供の将来にとっては、かなり高校生活は大切なのではないかと思って、勉強させていただきながら何か意見ができればいいなと思ってきました。今日はどうぞよろしくお願いいいたします。

#### 【司会】

特定非営利活動法人キッズドア地方創生推進室長 佐藤 陽（さとう あきら）委員です。

#### 【佐藤委員】

皆さんこんにちは。NPO法人キッズドアの佐藤でございます。キッズドアは元々東京で10年前に始まったNPO法人でございます。東京では生活困窮者向けの無料の学習支援をしております。そしてこの仙台そして南三陸では、震災後から地元の中学校や高校に入って、子供たちの学習支援をしている団体でございます。本年度6月からは、南三陸町と手を組みながら、南三陸町にある唯一の県立志津川高校の中に公設の学習センターを運営しております。そこで勤務をしております。日々、今日も中学生に朝、be動詞の授業をしてきて、ここに来ているのですが、色々な地域資源を知らない子供たちが沢山いるなということを感じておまして、これからはなんとか、潤沢にある地域の資源と子供たちを結びつけながら地域を担っていく人材を育てていきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

#### 【司会】

国立大学法人東北大学大学院教育学研究科教授 柴山 直（しばやま ただし）委員です。

#### 【柴山委員】

東北大学の柴山でございます。昨年度施行されました、新しい学校教育法第30条第2項に「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」という文言がございます。これは、おそらくこれからのますます激しく変化していく社会を見据えた条項かなと思っております。それで、私、専門が教育心理学、細かく言いますと、テスト理論、教育測定学というものでございますが、人間の様々な能力とか、パーソナリティとか、適性とかいったものを、心理学的なモデルを通して、分析していく、そういう分野であります。この審議会では、その立場で参画させていただくとともに、何よりも宮城の子供たち、高校生たちの将来の夢を第一に考えながら、意見を述べさせていただきます。ただあればありがたいと考えております。どうぞよろしくお願いいいたします。

## 【司会】

宮城県高等学校PTA連合会理事 半澤 裕子（はんざわ ゆうこ）委員です。

## 【半澤委員】

皆さんこんにちは。高P連から参りました、半澤裕子と申します。現在仙台三桜高校のPTA会長をさせていただいております。私は、小学校、中学校、高校とPTAに携わらせていただきまして、今年がラストという形にはなったのですけれども、現在高校3年生は、熱い夏を受験勉強で過ごしている最中でございます。それにも増して、今年は高校では、インターハイと総文祭ということで、宮城県内、高校生大活躍という時期がもう来週に、今週末ですか、迫っているというところで、学校の先生方もかなり忙しく過ごしているんじゃないかと思っております。保護者と致しましても、色々な方面での協力という形で、先生方とタッグを組んでお手伝いさせていただいているところです。受験の状況が、これからも様々に制度が変わっていくということもあって、子供たちが色々なところで右往左往しているところで、親と子供がどのようにコミュニケーションをとりながら情報交換をしてより良い進路選択を進めていくかということが、今、親にも子供にも第1番の課題になっているのではないかと思います。ですので、こういった地域に根ざした将来構想というのは大変大事なことです。参加させていただいて大変ありがたいことと思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

## 【司会】

国立大学法人宮城教育大学教職大学院教授 本図 愛実（ほんず まなみ）委員です。

## 【本図委員】

宮城教育大学より参りました本図と申します。どうぞよろしくお願いいたします。先生方には日々色々なところでお世話になっておりまして、一緒に机を並べて、これからの宮城の大事な私たちの宝である高校生について先生方と議論できるというのは大変光栄だと存じております。どうもありがとうございます。今、大学では、前期のまとめの時期になりまして、先ほども午前中は、ストレートマスターといいまして、大学の学部を卒業しまして、教採に受かっている者もおりますけれども、まだ昨日受験したばかりという者もいると思うのですが、そんな学生のまとめの授業ということで、理想の授業に向けて自分に足りないものは何か、というまとめをしておりまして、若い人が教職に向けて燃えている姿はいいなと思って、気分良く来たところです。一方、先週末、仙台市の選挙がございましたが、私は実は貝ヶ森居住で、小学校が家の目の前にあるのですけれども、統廃合の対象になって、近くの国見小というところに統廃合されてもう2年になるのですけれども、投票所を間違えてしまいまして、国見の地域のセンターに行くべきところをつい癖で貝ヶ森小に投票に行きましたら、仙台高校の子たちがバスケットをしていました。やはり校舎

は補助金が投入されているためなかなか解体はできないということで、学校がなくなるといことはつらいなと思いつつ、仙台市での答申の審議の時には、メンバーに入っておりまして、町内会では白い目で見られておりましたけれども。少子高齢化の中で、義務教育も高校もそうだと思うのですが、色々な役割があって、大事にしていかななくてはいけないところは、揺るがない線なのですけれども、将来を見据えて子供たちを成長させていく、そのことについてどうしたらいいのか、先生方と議論させていただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【司会】

株式会社気仙沼ニッティング代表取締役社長 御手洗 瑞子 (みたらい たまこ) 委員です。

#### 【御手洗委員】

株式会社気仙沼ニッティングの御手洗瑞子と申します。よろしくお願いいたします。私は宮城県で教育を受けたことがございまして、東京生まれで育ちも東京でございまして。その後外資系の企業に勤めて、その後今度はブータンで、ヒマラヤの国に行き、その政府に勤めていて、そして震災後に宮城県に来て、今は気仙沼で手編みのセーターなどの会社をしております。普段は編み手さんのおばちゃん達に囲まれて仕事をしながら、色々な気仙沼の昔話を聞いて、また、地元の気仙沼高校の評議員をやっておりまして、月に一回、「御手洗さんの何でも相談室」というものが開催されていて、悩みがある高校生の話を一人一時間聞く。そういうことをやっていると、私は宮城県の中では気仙沼しか分からないのですけれども、高校生、なかなか大変だなと。何が大変かと言いますと、まず大学がない。沿岸部に大学がないので大学以降の世の中、人生がいまいち想像できない。その中で時代の変化が激しいので、自分は親と同じように生きるのではないのだろうとか、漁師だとおじいちゃんがあるまま参考になるわけですが、なかなかロールモデルが家族の中にいない。じゃあ先生に相談したら分かるかという、先生は教師という生き方しか知らない。で、どうして良いか分からなくて、とりあえずセンター試験を受けて、適当に点数が合いそうな大学に入ることになるのですけれども、その後大学生になった子たちに改めて会うと、大体迷子のようになっていて、何をしたいのか分からない。なんとなく就活して受かったところに行くけれどもその後ずっとうっすらと辛いと感じている。そのようなことが大半ではないかなと思います。私は気仙沼の現場をやっていながら同時に、宮城県のお仕事はあまりしていないのですけれども、国の仕事はしてございまして、経産省の産業構造審議会ですとか内閣府の地方大学と若年雇用についての審議会、それから厚労省の「働き方の未来2035」でしたか、今年から労働政策基本部会ですね、国の仕事の方でこれからの産業とかこれからの働き方について考える仕事、お役目をいただいております。そうするとそこで話される多様な働き方と、気仙沼の高校生が今学んでいることの乖離がすさまじくて、この子達は10年後20年後生きていけるのかと

大変不安に思います。ですので、多様な生き方が世の中にあるのだということを早々に知って、その中で自分はこう生きていくのだということを自ら決心して、その覚悟を持って生きていけるようになるということが、一つ、教育環境を整える上で重要ではないかと思っております。勉強させていただきながらになると思いますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【司会】

宮城県町村教育長会会長 本明 陽一（もとあき よういち）委員 です。

#### 【本明委員】

宮城県町村教育長会の会長をしておりますが、先ほど境教育長さんがお話したように、町村は21あります。その中で今回会長ということで、参加させていただいております。利府町の教育長をしております。教育長6年目になります。町村のことを考えますと、利府町の場合は、時々高校の校長さん、支援学校の校長さんがいらっしゃいますけれども、宮城県の学校なのだけれども、利府町立利府高等学校の校長ですというお話をいただいたことがあります。それだけ地元の高校、支援学校は町と密着しているというわけです。この間も高校の代表選手の応援に、利府町の小中学校の子供達が利府高校に行って激励をして参りました。町長も行って参りました。高校のことを考えますと、他の東北の町村教育長会の会長さんがたとお話をしましても、町から高校が無くなるということは非常に大きな問題であります。小中学校もかなり統合されていますけれども、そういった意味で、町村教育長会の立場でこの審議会に出てお話をさせていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【司会】

宮城県白石高等学校校長 脇坂 晴久（わきさか はるひさ）委員 です。

#### 【脇坂委員】

はじめまして。白石高校の校長の脇坂と申します。この3月までは宮城県唯一の公立通信制の高等学校である美田園高校の校長を3年間務めておりました。その時に、教育企画室の皆様や、高校教育課の皆様に、様々な要望を繰り返し、将来構想に入れてほしいという要望をし続けて、将来構想にかなり反映していただきありがたいと思っておりました。そうしたら、4月になって企画室の方から「委員をやりなさい」というお話をいただき、断れないなという状況になったのが正直なところです。白石高校にもセブ宿校という昼間制定時制高校がございます。通信制高校の経験と今のセブ宿校の定時制高校の状況との共通点を拾ってみますと、小中学校の時代に不登校経験、学習履歴が乏しくても、それこそbe 動詞から学び直したいという本人の意欲があつて、そしてきめ細かな支援をするという

環境が組み合わせれば、かなりの程度、学び直しとかあるいはコミュニケーションの力とか、社会に入っていける力をつけることができる、回復していく役割を果たすことができるし、通信制高校も定時制高校もそれなりに使命を果たしているものと感じています。しかしながら、痛切な悩みは、それ以外のニーズを持って（他に入れるところがないという消極的な理由で）入学してくる生徒達も結構沢山いまして、その子たちが同じ教室の中で共存しなくてはならないということです。これが、教員にとっても両方の生徒達にとっても、非常に辛い状況になっております。このような状況を将来に渡って、なんとかできないものだろうかと感じていたところでございます。多様な生徒達に対してどのような学習機会を提供していったら良いのかという問題意識を持って、参加させていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【司会】

それでは、最後に、一般社団法人みやぎ工業会理事 片瀬 弥生（かたせ やよい）委員です。

#### 【片瀬委員】

すみません。ちょっと遅参してしまいまして、申し訳ございませんでした。今日は工業会の行事で、いろはの会という女性経営者の会がありまして、それで石巻の方で工場見学をしておりました。実を言うところらの予定と被ってしまっていて、バタバタしてしまっただけですが、こちらの予定を聞かれてからそちらの予定が決まって、こちらの予定が決まったということで、タイミングが悪かったなという感じがしておりました。申し訳ございません。

私はみやぎ工業会の理事をさせていただいております。その中で、今、女性経営者も少しずつ増えてきておまして、女性からの目線でものづくりを考えていきたいと思いますということも色々な面で提案をさせていただいております。教育の方のお話をいただいたときに、本音の話をすると、学校教育に興味がなかったという状態がございました。ただ、この頃すごく感じているのは、仕事の定着があまりよくないということと、活気に満ちた新入社員が少ない、というようなことを感じておりました。経営者が集まるといつもそんな話ばかりが出てきておまして、是非、こう活気のある元気な地元大好きという人を、県の中で育てていただけるように、なんとか私の方でも意見していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### 【司会】

皆様ありがとうございました。なお、本日は、学校法人専修大学石巻専修大学経営学部准教授 庄子 真岐（しょうじ まき）委員、株式会社緑水亭若女将 高橋 知子（たかはし ともこ）委員、国立大学法人宮城教育大学教育学部教授 田端 健人（たばた たけと）委員、

宮城県貞山高等学校校長 遊佐 忠幸（ゆさ ただゆき）委員の4名の方々から、所用により欠席される旨の御連絡がありましたので、御報告いたします。

### 3 あいさつ

#### 【司会】

続きまして、宮城県教育委員会教育長 高橋 仁（たかはし ひとし）から御挨拶を申し上げます。

#### 【高橋教育長】

改めまして、皆さんこんにちは。開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

皆様方には日ごろから本県教育の充実・発展のため、御指導、御協力をいただいておりますことに厚く感謝申し上げます。また、このたびは大変御多用のところ、本審議会の委員をお引き受けいただき、心から御礼申し上げます。

今、お一人お一人から、自己紹介をしていただきましたけれども、大変すばらしい皆様にお集まりいただいたなど、改めて実感しております。この審議会での議論を大変楽しみにしているところでございます。よろしく願いいたします。

この審議会について少し説明をさせていただきます。この審議会につきましては、本県の県立高等学校の在り方に関する総合的かつ基本的な構想について調査審議いただくということを主な目的として、平成20年7月に設置され、第1期目の審議会においては、「これからの県立高等学校の在り方」について答申をまとめていただき、その答申を受けて平成22年3月に現行の「新県立高校将来構想」を策定いたしました。その後、平成22年7月に第2期目、平成24年9月に第3期目の審議会を設置し、県立高校改革の取組の成果及び課題に関する検証を行い、答申を取りまとめていただきました。これらの答申を受けまして、現在、本県では、「新県立高校将来構想」に基づき、学力の向上やキャリア教育の充実、地域のニーズに応える高校づくりなどに取り組んでおります。また、登米総合産業高校の設置や松島高校観光科、多賀城高校災害科学科を設置するなど、魅力と活気ある高校づくりを目指して高校教育改革を推進してきたところでございます。

しかしながら、高校教育に関する課題は、まだまだ山積しているところでございます。その一端については、ただいまの自己紹介の中にもお示しをいただいたところでございます。さらに少子化がこれも御案内のとおり、急速に進展するところでありまして、6年前の東日本大震災等により社会情勢が大きく変化しております。また、学習指導要領の改訂や大学入試改革など高校教育をめぐる状況も大きな節目を迎えているところであると認識しております。こういった高校教育に対する様々な時代の要請に応えるとともに、これからのふるさと宮城の将来を創造し支えていく人づくりを推進するために、早期にこの高校教育についての検討を進めていく必要があると考えたところでありまして。こうしたことから、現構想の計画期間終了を待たずに、新たな県立高校将来構想を策定することとし、

今年度より検討を開始することとしたものであります。

今期の審議会においては、学校教育が抱える様々な課題を踏まえ、県立高等学校の将来を見据えた新たな指針となる構想の策定につなげるため、委員の皆様には、これからの宮城の高校教育について、幅広く、また忌憚りの無い御意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。御挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【司会】

それでは、ここで県教育委員会の主な出席者を御紹介させていただきます。

ただいま、御挨拶を申し上げます、宮城県教育委員会教育長の高橋 仁（たかはし ひとし）です。理事兼教育次長の西村 晃一（にしむら こういち）です。同じく教育次長の清元 けい子（きよもと けいこ）です。その他、関係課室長が出席しておりますが、配布しております名簿をもって紹介に代えさせていただきます。

続きまして、会議の成立について御報告を申し上げます。

本審議会は、20名の委員で構成されておりますが、本日は16名の御出席をいただいております。県立高等学校将来構想審議会条例第5条第2項の規定により、過半数の委員が出席しておりますので、本日の会議は成立しておりますことを御報告申し上げます。

### 4 議 事（仮議長：高橋教育長，議長：本図会長）

#### ① 会長及び副会長の選任について

##### 【司会】

それでは、議事に移らせていただきます。

会長が選任されるまでの間、高橋教育長が仮の議長となり議事を進めさせていただきますので、御了承願います。高橋教育長、議事進行をお願いいたします。

##### 【仮議長（高橋教育長）】

それでは、暫時、仮の議長を務めさせていただきます。

はじめに、議事（1）会長及び副会長の選任についてでございます。どなたか、御推薦等はありませんでしょうか。

御意見が無ければ、事務局から案はありますか。

##### 【事務局（佐々木教育企画室長）】

事務局から提案させていただきます。会長には本図委員を、副会長には柴山委員をそれぞれ提案させていただきます。

##### 【仮議長（高橋教育長）】

ただいま、事務局から、会長には本図委員を、副会長には柴山委員を、との提案がござ

いました。如何でしょうか。

(拍手)

**【仮議長（高橋教育長）】**

ありがとうございます。それでは、会長を本図委員，副会長を柴山委員にお願いしたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

本図会長，柴山副会長は，会長席，副会長席へ御移動をお願いいたします。

私の方はここまでということで，仮議長を終わります。ありがとうございました。

**【司会】**

それでは，ただいま選任されました本図会長と柴山副会長から御挨拶を頂戴したいと存じます。よろしく願いいたします。

**【柴山副会長】**

柴山でございます。副会長といたしまして，本図会長を全力で支えて参りたいと存じます。よろしく願いいたします。

**【本図会長】**

会長を仰せつかりました本図でございます。正直，良いのかなという気持ちが率直なところです。柴山先生をはじめ皆様がそれぞれ重責を担っておられて，お忙しいということですので。大学院の時代から助手をしておりまして，下働きは得意ですので，皆様の御意見をうまくまとめられるように，より良い答申へ向けての議論ができるように尽くしてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

**【司会】**

ありがとうございました。

**② 諮 問**

**【司会】**

ここで，教育委員会から本審議会に諮問がございます。教育委員会を代表して高橋教育長から，本図会長に，諮問いたしたいと存じます。本図会長，高橋教育長，よろしく願いいたします。

**【高橋教育長】**

今後の県立高等学校の在り方について。県立高等学校将来構想審議会条例第1条の規定

により、別紙理由書を添えて諮問します。

理由書。本県では、平成13年に策定した「県立高校将来構想」及び平成22年に策定した「新県立高校将来構想」に基づき、魅力ある高校づくりを目指して、志教育の推進や地域のニーズに応える高校づくり、生徒数の減少に対応した学級減や学校再編などの高校教育改革に取り組んでまいりました。

しかしながら、「新県立高校将来構想」の策定から7年余が経過し、少子高齢化が急速に進展するとともに、東日本大震災の発生等により、経済環境や生活環境、地域社会の有り様は大きく変化しております。

高校教育についても、社会情勢が急速に変化していく中で、少子化の進展への対応、復興後を見据えた次代を担う人材の育成、地方創生やグローバル化への対応がますます重要となっています。さらに、様々な学習歴をもつ生徒一人一人が、個性や能力を活かして学び、地域社会の一員として能力を発揮していくことができるよう体制を整えていく必要があります。

このようなことに加えて、県教育行政の基本的な計画である第2期宮城県教育振興基本計画を平成29年3月に策定したことを踏まえ、次期県立高校将来構想を2年前倒しして策定することとし、宮城の将来を創造し支えていく人材の育成に向けて、多角的な見地から調査審議いただくため、県立高校教育が果たすべき役割や県内の高校の配置を含めた今後の県立高校の在り方について諮問するものです。

よろしく願い申し上げます。

### ③ 会議の公開について

#### 【司会】

それでは、ここからは本図会長に議事進行をお願いしたいと存じます。本図会長、よろしく願いいたします。

#### 【本図会長】

それでは、ただいまより、大変力不足ですが私が司会を務めさせていただきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

ただいま教育長より諮問をいただきました。諮問の内容につきましては読み上げをしていただきましたけれども、委員の皆様のお手元にも理由書をお配りしております。

それでは、議事(3)に参ります。会議の公開について、事務局から御説明をお願いします。

#### 【事務局(佐々木教育企画室長)】

教育企画室長の佐々木でございます。どうぞよろしく願いいたします。それでは、会議の公開について、お配りしております資料2及び参考資料の情報公開条例(抜粋)、この

2枚を使用して御説明させていただきます。

はじめに参考資料、条例の抜粋を御覧いただきたいと思います。附属機関である審議会の会議につきましては、県の情報公開条例第19条の規定により、原則公開する旨が定められております。

ただし、この例外として、個人情報など非開示情報が含まれる会議について、または会議を公開することにより、当該会議の公正かつ円滑な運営に支障が生ずると認められる場合については、委員の3分の2以上の多数決をもって非公開とすることが認められており、非公開にするかどうかの扱いは、第1回目の会議で決めることとされております。

事務局といたしましては、当審議会では、現在のところ公開することを想定しておりますが、今後の審議において、公開とすることが、意思決定段階における十分な審査・検討の実施に支障を及ぼす可能性が想定される等の場合には、その都度会議の公開の有無を議決することを提案させていただきます。

併せて会議を公開する場合につきましては、会議を円滑に進めるために、資料2のとおり傍聴要領（案）を提案させていただきます。

傍聴定員については、会場の大きさに応じて、適宜定員を設定してまいりたいと考えておりますが、本日は15人と設定したいと存じます。

なお、「公開した会議」の資料及び会議録は、「審議会等の会議の公開に関する事務取扱要綱」において、県の県政情報センターにおいて県民の皆様の閲覧に供するとともに、ホームページに掲載して公開するものとされております。

追って、会議録については、事務局で原案を作成し、委員の皆様に内容を御確認いただいてから、公開の手続きをとらせていただきたいと思います。と存じます。

以上で、説明を終わります。

#### 【本図会長】

はい、ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、何か御質問、御意見はございますか。

では、事務局原案のとおり承認することとしてよろしいでしょうか。

< 了 >

それでは、本審議会は、特別の事情がない限り原則公開とし、資料2のとおり傍聴要領を定めることといたします。どうぞよろしく願いいたします。

#### ④ 宮城県の高校教育の現状について

##### 【本図会長】

続きまして、議事（4）宮城県の高校教育の現状について、事務局から御説明をお願いします。

### 【事務局（佐々木教育企画室長）】

はい、続きまして私から説明をさせていただきます。宮城県の高校教育の現状についてでございます。資料 3、目次を御覧いただきたいと思います。この資料 3 は、本県の高校教育の現状等について、主に統計データを用いてまとめた資料となっております。1 ページ目の「高校教育を巡る現状」に続き、大きく 5 つの項目に分類してデータを掲載しております。

まず、1 ページを御覧ください。「高校教育を巡る現状」ですが、人口減少社会の到来をはじめ、家庭環境や地域社会の変化といった近年の様々な社会環境の中において、高校の現状としては、小規模校の増加や不登校生徒や中途退学者の増加などの実態が挙げられております。このような中、高校教育においては、開かれた学校づくりはもとより生徒の多様な個性や特性に対応した教育の推進など、魅力ある高校づくりに向けて様々な取組が求められているところでございます。これらを踏まえまして、県立高校においては、学習指導要領の改訂など社会の変化に対応した在り方や、生徒の多様化に対応した学校・学科構成や支援の在り方、生徒数減少に対応した高校配置の在り方等について検討していく必要がございます。

次に、2 ページ目を御覧ください。項目 1 「本県における高校教育改革の現状」として、これまでの本県の生徒数及び全日制高校の数の推移等について掲載しております。詳しくは後ほど御確認いただければと思います。

続きまして 3 ページ目をお開きください。このページでは、「県立高校将来構想」及び「新県立高校将来構想」に基づき平成 13 年度以降に進めてきた施策の推進状況を掲載しております。個別の説明は割愛させていただきますので、これも後ほど御覧いただければと思います。

続きまして 4 ページ目を御覧ください。項目の 2 つ目といたしまして、「本県における高校の設置状況」を掲載しております。地区別・学級数別の高校の設置状況について掲載しているものですが、県内の全日制の公立高校は 71 校あり、そのうち 1 学年 3 クラス以下の小規模校は、中部地区及び石巻地区以外の 5 地区において 17 校存在するという状況となっております。また、定時制の高校は 13 校あり、そのうち 4 校が昼間部及び夕・夜間部を併設する多部制となっております。

5 ページ以降につきましては、専門学科別の配置状況を含め県内の公立高校の配置状況を地図上に落とし込んだものを掲載しているところでございます。各専門学科とも県内全域に比較的バランスよく配置されている状況となっているかと思えます。

次に、現構想期間内の高校及び学科の新設・拡充の取組につきまして 10 ページに記載しております。10 ページを御覧ください。

平成 27 年 4 月には、登米総合産業高校を新設したほか、現在、南部地区での職業教育拠点校の新設に向けた取組を進めているところでございます。学科単位では松島高校に観光科、多賀城高校に災害科学科を新設したほか、水産高校の海洋総合科の拡充にも取組

んできたところでございます。

次に、12ページを御覧ください。項目の3といたしまして、「中学校卒業生数の推移・将来予測」では、全県及び地区別の中学校卒業生数の推移を掲載しております。全県のグラフを見ますと、平成43年3月卒業生数は18,972人となっており、平成28年3月卒業生数21,710人に比べマイナス2,738人、率にいたしまして12.6%の減という推計となっております。

地区別では、中部地区を除き、いずれの地区においても大幅な減少が見込まれる状況となっております。また、13ページをお開きください。13ページの上になりますが、中部地区におきましても、平成43年3月卒業生数は13,827人となっており、平成28年3月卒業生数14,264人に比べマイナス437人、率にして3.1%の減と全体として減少傾向となっているところでございます。

続きまして16ページを御覧ください。16ページには、項目4「本県高校生の進路の状況」を掲載しております。平成28年3月の卒業生では、全日制で、大学や専修学校等への進学が70%強を占めており、就職者は23.5%となっております。定時制で見ますと、55.6%が就職しているという状況でございます。17ページ以降には、学科別の卒業後の進路、大学等現役進学率及び現役進学達成率の推移、就職決定率の推移等について掲載しております。

少し飛びますが、23ページをお開きください。項目の5といたしまして、「本県の高校生の不登校・中途退学の状況」を掲載しております。不登校生徒数及び不登校出現率の推移とその要因、また、24ページには中途退学生徒数及び中途退学率の推移とその要因について掲載しております。

最後に25ページをお開きください。こちらのページでは、「本県公立高校のICT教育環境」についてのデータを掲載しております。ハード整備や利活用の促進については全国平均よりも下回っているものがあるという状況となっております。参考としまして、27ページには児童生徒のスマートフォン等の所有率などのデータも掲載しております。

駆け足でポイントのみの説明となりましたが、以上で終わらせていただきます。

#### 【本図会長】

はい、ありがとうございました。それでは、今御説明いただきました資料の内容について、御質問等ございますでしょうか。如何でしょうか。委員の皆様にはざっと事前に見ていただいていたと思うのですが、この点は不明というものがありませんでしたら。

< 了 >

よろしいでしょうか。それでは、また不明のところは戻ることもあるということで、この件については以上といたします。

## ⑤ 「(仮称) 第3期県立高校将来構想」の策定について

### 【本図会長】

それでは議事の(5)になります。「(仮称) 第3期県立高校将来構想の策定」について、事務局から説明をお願いします。

### 【事務局(佐々木教育企画室長)】

それでは、(仮称)第3期県立高校将来構想の策定について、御説明いたします。資料4を御覧ください。

1の「策定の趣旨」についてですが、本県では、現在、平成22年3月に策定した「新県立高校将来構想」に基づき、高校教育改革に取り組み、魅力ある高校づくりを推進しております。現構想の期間につきましては、平成33年3月までとなっておりますが、策定しましたのが、東日本大震災前であること、また、第2期宮城県教育振興基本計画の策定が前倒しされたこと、全日制の小規模校が17校を数え、生徒の教育環境の整備・充実のためにも早期に検討を進める必要があることなどから、次期将来構想の策定を2年前倒しし、計画期間を平成31年度から40年度として策定するものであります。

次に、2の「策定方法」でございますが、有識者の皆様で構成されます本審議会「県立高等学校将来構想審議会」に諮問し、専門的な見地から当該構想に関する重要事項を調査審議していただくとともに、学校関係者を含む県民の意見を本構想に反映させるため、学校調査やパブリックコメント、意見聴取会を実施する予定であります。

なお、構想策定の主な視点としては、人口動態から見た少子化の進展への対応や復興を支える人材の育成、地方創生への対応などとしております。

次に、3の「県立高等学校将来構想審議会」についてでございます。(1)の「目的」ですが、教育委員会の諮問に応じ、県立高等学校の在り方に関する総合的かつ基本的な構想を策定すること、当該構想に係る施策の成果及び課題の検証その他当該構想に関する重要事項を調査審議いただくものであります。

続きまして資料裏面を御覧ください。4の「県立高等学校将来構想審議会スケジュール(予定)」でございますが、来年度末の構想策定に向けて、先ほど行われました諮問に対する答申を来年10月にいただくまで、本日を含め7回ほど審議会を開催するスケジュールとなっております。また、その間、この後詳しく説明させていただきますが、学校調査や産業関係団体への訪問調査、パブリックコメント、意見聴取会などを実施し、具体の構想案の検討を進めていく予定であります。

以上で、説明を終わります。

### 【本図会長】

はい、ありがとうございました。それではただいまの説明につきまして、何か御質問、御意見等はございますでしょうか。

**【本明委員】**

お聞きしたいのですけれども、資料3の3ページにあります県立高校の将来構想と、新県立高校の将来構想がありますよね。その中で県立高校の将来構想は4点が重点項目と考えてよろしいのだと思うのですね。それから、新県立高校の将来構想は、6点からということになっていると思います。それでよろしいのですか。つまり、今度の第3期の県立高校将来構想の場合は、策定方法の主な視点5つ書かれていますけれども、その項目を含めた重点項目で考えるということでもよろしいのでしょうか。

**【本図会長】**

ありがとうございました。事務局から、如何でしょうか。

**【事務局（佐々木教育企画室長）】**

はい。資料3の3ページに掲載しておりますこれまでの構想における取組状況につきましては、委員御指摘のとおり特に重点的に取り組んできた項目ということでお読みいただければと思います。対しまして、資料4の2の策定方法のところにお示ししております主な視点といたしましては、今後、次の構想を御検討いただく上で、こういった視点をお持ちいただいた上でそれぞれの専門的見地から御意見を賜りたいというものとして、お読みいただければと思います。

**【本図会長】**

ありがとうございました。はい、高橋教育長。

**【高橋教育長】**

今、室長から説明申し上げたとおりなのですが、主な視点ということで今回お示しましたが、この審議会の中で様々な議論が出されて、その中で柱立てしていきたいということでもあります。取りかかりの視点としてはここに5つですけれども、これをそのまま柱にするかどうかについては、ここでの議論の中で固めていきたいと思っております。ですから、プラスアルファ、マイナスアルファがあるものと御理解いただければと思います。

**【本図会長】**

はい、ありがとうございます。そうしますと、資料3の3ページの新県立高校将来構想の6点の視点について、現在はこれで走っている、このことを踏まえてバージョンアップしていくかどうかについてを含めて、ここで議論して良いという理解でよろしいでしょうか。その際に主な視点として上がっているような、5つの視点を、視点といいますか手法といいますか、まとめていくときの観点としては如何かと、そういうことでもよろしいのでしょうか。

**【事務局（佐々木教育企画室長）】**

そのように御理解いただければと思いますし、また、事務局側でも柔軟に対応させていただきたいと思います。

**【本図会長】**

大変分かりやすい御質問と御回答をいただきありがとうございました。他、如何でしょうか。こういった審議に初めての委員もおられると思いますので、是非これはどうかと、分かりにくい部分についても意見等ございましたら。

特に仕組みとしては、本明先生に御指摘いただいたところなどが、大きな軸となってきますが、時間的な流れで言いますと、資料4の裏面のスケジュールで、ここで学校調査などを手法としながらということになってくると思います。それについてはまた、次の議論でということになります。とりあえず、資料4の大きなスケジュールについても今後内容によって、追加、削除とも色々なことがありうると思うのですが、大きな予定ということで、この内容でよろしいでしょうか。

< 了 >

はい、ではそのような予定で進めていければと思います。

それでは、平成30年10月の答申に向けて、委員の皆様と議論を重ね、より良いものにしていきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

**⑥ 高校教育に関する学校調査の実施について**

**【本図会長】**

続きまして、議事(6)高校教育に関する学校調査の実施について、事務局から説明をお願いします。

**【事務局（佐々木教育企画室長）】**

資料5になりますが、高校教育に関する学校調査についてを御覧ください。

「1 調査の目的」でございますが、「(仮称)第3期県立高校将来構想」策定の検討資料とするため、高校教育に関する現状やニーズ等をアンケート形式により調査するものです。

「2 調査の対象」についてですが、公立中学校の2年生、県立高校の2年生、中学生・高校生の保護者、公立中学校進路指導担当教員及び県立高校教員とし、中高生徒分につきましては抽出調査、保護者分につきましてはオンライン調査、公立中学校進路指導担当教員につきましては1校当たり1名の全数調査、県立高校教員につきましては、進路指導部長、教務部長、クラス担任など、全県立高校を対象に1校当たり3名を対象として調査を実施することとしております。

「3 調査項目」でございますが、各調査対象により一部異なりますが、主に生徒や学校教育の現状に関することや、生徒の進路希望等に関すること、高校教育に関するニーズ等

についての内容で構成し、詳細は別紙資料のとおりです。

「4 調査スケジュール」及び「5 調査方法」についてですが、8月18日（金）を目処に各学校を経由して調査の依頼を行います。生徒及び教員分については、各学校において調査を実施していただき、9月15日（金）までに御回答いただくこととしております。保護者対象のオンライン調査につきましては、9月1日（金）から2週間実施することとしております。その後事務局で結果の集計及び分析を行い、10月下旬に開催いたします第2回の本審議会において、報告する予定です。

なお、この調査と別に産業界における高校教育に関するニーズを把握するため、訪問調査により確認させていただきたいと考えているところがございます。

学校調査についての説明は以上でございます。

#### 【本図会長】

はい、ありがとうございました。いよいよ具体のところに入ってまいりましたけれども、この件について御質問や御意見は如何でございましょうか。

#### 【加藤委員】

事前に資料をいただいていたので、学校調査のところ、時間があつたので見ていたのですが、結構気になることが多くありまして、細かなところですが、気になるところをお話ししておきたいと思います。まず一つは中高一貫教育のことについて質問している項目がありますが、中高一貫を質問するのに、中学校と高校の保護者で良いのかということが一つあります。やはり、中高一貫の有り様について問うのであれば、例えば小学校の保護者は当然必要になるだろう。現在中学校に進んだ保護者に中高一貫とか中等教育学校について質問しても、それが意味を持つのかというところがあります。それから、話は飛びますけれども、高校の保護者向けの質問の中に必要だと思うのは、現在、お子さんがどの程度の学校規模のどの学科に通っているかという質問がないと、現状を踏まえてどう思っているかが見えてこないのではと。中学校の保護者については問題ないですけれども、高校の保護者に対してであれば、その情報も問わないと見えてこないものがあるのではないかなと思います。それから、細かい点なのですが、質問項目が少し吟味不足というか、回答例が吟味不足ではないかと正直思っております。例えば、中学2年生対象で（3）にあなたはどんな学校段階まで進学したいですかという質問に、中学校という選択肢。中学生に中学生まで進学したいですという問いは成り立ちますかね。それは、当然進学はしないというものにしないとおかしいと思います。それから（4）も出たいからなどと統一するのであればいいのですが、①番は習得、知識の習得という言葉で終わっているというように、せめて文言の問い、選択肢についてももう少し吟味されたほうが良いと思います。同じように裏側の（5）の重視しますかも、上のほうがつながるか、学べるかときいて途中で先生の意見、学校の評判、学校の規模というふうにくるので、それであれば、評判と

か規模というのであれば、将来希望する進路につながることを学ぶこと、自分の学力にあっていて、とかというように、文末をそろえる工夫はしていただきたいと思います。それから、(7)、これも見た瞬間に相当違和感があったのですが、どのような学科で学んでみたいですかはいいいのですが、中学生、普通学科って言葉使いますか。高校教育課さんも普通科としか言ってないと思うので、全部学科とするのには無理があると思います。突然⑭番で観光科が出てきますし。ですから高校教育課さんが使っている普通科とか看護科、それで、もしそれで統一できないのであれば、農業とかについては農業系の学科という言い方で、中学生にとってきちんと回答しやすい形で整理いただくようお願いいたします。ざっと見ていったときに、気になった点ですので、小さな注文中で恐縮ですが、よろしくようお願いいたします。以上です。

**【本図会長】**

はい、ありがとうございました。中学生にも理解しやすいようにというところで、それはまた、柴山先生はテストの専門家ですので、事務局と柴山先生と私とで、精査をしたいと思います。その上ですが、他、如何でしょうか。柴山先生、如何ですか。

**【柴山副会長】**

学校調査を設計されるに当たって、資料4にございます策定方法の主な視点との関連とかいうのは意識されましたでしょうか。質問項目から、例えば、人口動態からみた少子化の進展への対応とかいったあたりを、データとして出てきたときに、どう読み取っていけば良いのかなとか、次の復興を支える人材の育成、それから地方創生への対応、おそらく大きな基盤、基礎的な流れとして、全国で進んでいる少子高齢化があります。30年後でしたか50年後でしたか明治維新のレベルまで人口が落ちていくという中であって、これからの高校をどういうふう設計していくのかということがこの審議会の論点になるかと思うのです。もちろん50年後まではとても見通せないでしょうが、その最初のベクトルがどう向いているのか、というのを見ないといけないと思うのですが、加藤委員が御指摘されたように、この質問をして何をデータとして取ろうかというところが、少し分かりにくいかなと思いました。質問肢の設計というのでしょうか、そのあたりを再考されたほうが良いかなというコメントです。

**【本図会長】**

ありがとうございます。コメントということでございましたけれども、事務局から、ポイントとなる点はございますか。

**【事務局（佐々木教育企画室長）】**

はい。資料5で説明申し上げました学校調査につきましては、今の柴山副会長のお話の

観点から申し上げますと、どちらかというニーズを聞かせていただく内容を多く入れ込んでいたのかなと思っております。一方、資料4でお示ししました、策定方法のところ掲げる主な視点に関しましては、例えば50年スパンで見た中での最初の10年をどうしましょうか、という切り口もあろうかと思えます。こちらに関しましては、資料3の中には中学校卒業生数の推移に関するデータなどを記載しておりましたが、可能な限り検討のために必要と思われる資料を整えた上で御議論いただければというところで、この資料4で掲げる主な視点と資料5における学校調査の項目自体が直接リンクしているものは少ないというのは確かにその通りでございます。ニーズを重視させていただいたとお読みいただければと思います。

#### 【柴山副会長】

将来構想のスパンは10年ですよね、そういたしますと、短期のスパンでの論点と、それから先ほど申し上げた50年の、50年は見通せないのですけれども、そういう方向に向いているというのは確かですから、そのあたりで2つの論点があるのかなと思ひまして、そのあたりも審議会を進めていく上で、論点のレベルを整理していったほうが将来構想を作っていく上で効率的かなと思ひました。

#### 【本図会長】

はい、ありがとうございました。この点について事務局からありますか。

#### 【高橋教育長】

今の柴山副会長からお話があったところ、まさに今回の、第3次の将来構想を策定する際に重要な視点であると思っております。先ほど冒頭のあいさつで申し上げましたように、国における学習指導要領の改訂であるとか、大学入試制度の改革については、大変大きな高校教育の在り方の見直しのポイントになります。その時期と今回の県立高校の将来構想の見直しのタイミングが一致しているということ、それから少子化の中で地方創生の視点というのは地方がなくなって良いのかということと、それに県立高校がどう関わるのかということところは10年だけのスパンではないので、今後30年、40年と進んでいくその地方の在り方と県立高校の在り方とどう関わっていくのかという視点ははずせない部分であります。そういった長期的視点も加味しながら、とは言いながら今の中学生が高校に求めること、保護者が高校に求めること、それはそれでニーズとして押さえておく必要があるということで、10年間の一つのスパンと、中長期の中の10年と、この両面を新しい将来構想の中に入れていければと考えております。そういった点で加藤委員からも御指摘のあった調査項目自体についての御意見をもう少し頂戴して、事務局として今回お示しをしましたが、それについては会長、副会長と御相談しながら、必要な改正を加えていきたいと考えております。

**【本図会長】**

はい、ありがとうございました。それでは、伊藤委員。

**【伊藤（秀）委員】**

伊豆沼農産の伊藤です。私も、今の前段の議論なのですが、主な視点のところは核となるところでございますので、是非アンケートに盛り込んでいただきたいと思っております。あと、アンケートの話なのですが、資料5の一番下のほうに、産業界の高校教育に関するニーズについて把握するため訪問調査を行うとありますけれども、この産業界に対しての所属はどこかということとその内容を教えていただければと思います。

**【本図会長】**

では、訪問調査の方です。事務局からお願いします。

**【事務局（佐々木教育企画室長）】**

個別の企業さんに訪問なり調査表をお送りするということになると、なかなか数も多くて難しいところもあろうかと思われましたので、それぞれの業界団体の方にこちらから出向きまして、業界を支える人材として、今どのような人物像が求められているのか、それを前提とした上で、では高校としてどのように関わっていったら良いのかなどについて聞かせていただければと思っておりました。訪問などにつきましては、個別に調整させていただきますと考えているところです。

**【伊藤（秀）委員】**

ということは、工業会さんですとか東経連さんとかそういう団体にヒアリングに行くということでしょうか。

**【事務局（佐々木教育企画室長）】**

そのように考えておりました。

**【伊藤（秀）委員】**

地方創生ということもありますけれども、宮城県でいうと仙台は別格ですから、敢えて郡部のほう、宮城県内の地方ということで申し上げたいのですが、やはり大卒の子供が、なかなか地方に戻ってきてくれないという観点から、我々地方に位置する企業の者としては、高卒の定住化を切望するものです。仙台と地方の産業というのは別ですから、そういうところを分けて調査できるようにという視点を持っていただければ、ちょっと面白い結果が出るのではないかと。高卒が戦力になる地域でございますので、是非お願いしたいと思います。

**【本図会長】**

訪問調査の際も、仙台市とそれ以外の地域での観点を十分踏まえて欲しいということでございました。可能ですよね。

**【事務局（佐々木教育企画室長）】**

工夫の上、御指摘の点に対応させていただきたいと思っております。

**【本図会長】**

はい。では御手洗委員お願いします。

**【御手洗委員】**

学校調査について、御説明いただきありがとうございました。調査対象について。質問というか提案なのですけれども、これからの宮城県の高校教育がどうあるべきかを考えるに当たって、そもそもですね、直近で宮城県の高校で教育を受けて卒業した子たちに正直なところどうでしたかと、社会に出てみてまた大学に行ってみてどうでしたか、と。本当はもっとこういうところを学びたかったとか、この情報がないまま行ったから大変だったとか聞くというのも大事な視点かなと思います。具体的には例えば、今24歳の子たちと考えますと、大学進学している場合は社会人2年目くらいです。卒業が2011年になりますので、県立高校将来構想の1つ前の将来構想の時代に宮城県で教育を受けて大学に出て、就活で苦労したかもしれないけれど働いて2年くらいで、もっとこういうことを学びたかったなど、そういうような正直なことを言ってもら。それから、もう一つ年齢として候補と思うのは、20歳くらいの子たちですね。高校を卒業して就職したとすると、高卒での就労が2年目になっていて、大学生になっているとそろそろ就活が始まる時期です。この子たちは2015年の卒業になりますから、新県立高校将来構想の下で教育を受けた子たちになります。そうした子たちにフィードバックをもらうというのは、一つ重要なかなと思います。商品サービスのアンケートを取る場合には、これから使いたい人ではなく使った人にどうでしたかと聞くというのが基本かなと思いますので、若干捕捉するのが難しい、実施が難しいということもあるかもしれませんが、御検討いただくとよろしいかなと思いました。

**【本図会長】**

はい、ありがとうございます。これは重要な視点ですよね。では、どういうふうに対象者を捕捉するかについてはまた検討することとして、是非そのような方向で検討すること。まだ対象を追加していくことについては可能ですよね。ではそのようなことでお願いいたします。

### 【柴山副会長】

何度もすみません。訪問調査を行う時の視点なのですけれども、学力の見方というのがずいぶん変わってきていて、今までは学校教育と企業教育というのはどちらかといえば分離している感じだったのですけれども、だんだん能力論がスキル論に移って行って、企業教育も学校教育もあまり境目がなくなりつつあって、おそらくそれぞれが、仕事の中で必要な力、具体的な力として当然必要なのですけれども、これだけ情報化が進みますと、抽象的な概念を操作する力というものがそれに加えてますます必要になってきています。そういう部分も含め具体的に質問項目として落とせるかというところ、ちょっと難しいところはあるのですけれども、いわゆる教科教育というところで学校教育というものは進んでいるのに対して、企業教育のほうは、具体的な仕事というところでそういう力をつけているわけです。そのつながりみたいなものがヒアリングとして聞き取れるような質問を、すみません具体的な提案ができなくて申し訳ないのですけれども、そのあたりの視点というものも訪問調査のところに入れておかれるとよろしいのかなと思いました。

### 【本図会長】

いわゆるコンピテンシー的な能力についても整理した上で、お互い意見交換ができるようにお尋ねしていくという御意見、もっともかと思えます。これも工夫してできますよね。はい、菊地委員。

### 【菊地委員】

すみません、行ったり来たりするのですが、調査の方で、子供さんに聞く調査についてなのですが、ニーズを聞きたい、つまりニーズ調査ということなのですけれども。「お子さんの置かれている問題」の中に、地域の格差ということがあったはずなのですが、ニーズというだけでは、「何がしたい」という回答が返ってくるわけで、本人たちがどのような状況に置かれているからこそ出てくる中身であるか、ということが全く考えられなくなってしまっているんですね。ですから彼らの現状について、どこに住んでいるかなどだけではなくて、この人がどんな学びがあって、どんな背景があるかということが同時に調べられていないと。後ですね、例えばいっぱい学科が並んでいますけれども、これを見て内容を理解できる中学2年生がどのくらいいるのかなと。「分からない」という項目もあっていいのではないかな、とか。そういう目線を見た時に彼らの生きている世界の中で答えられる項目も用意しておかないと、実際には本当にすくいたいこと（内容）をすくえないのではないかと。意見ですが、よろしく願いいたします。

### 【本図会長】

はい、ありがとうございます。子供の状況を把握できるような質問だとか分からないと答えてもいいようなところだと思うのですけれども、現在楽しく学校に通っていますかと

いうことなど聞いてみてはだめですかね。

**【事務局（佐々木教育企画室長）】**

特に質問自体に何かの制限を加えてやるわけではないので、お答えいただけるのであれば色々なところを聞いてみたいというのは正直あることはあります。なかなかボリュームが多くてそのことだけで嫌気がささないようにということにも多少配慮しなければならぬと思いますけれども、せっかく聞くのであれば、色々なことを確認できるような内容というものもこれまた大事な視点だと思います。御助言をいただきながら検討させていただきたいと思います。

**【本図会長】**

はい、ありがとうございました。片瀬委員。

**【片瀬委員】**

先ほどの産業界への聞き取り調査についてなのですが、各産業団体の事務局ということだと思うのですが、はっきり言って事務局ではそういったものを捉えていないと思います。県の中の大きな団体というほとんど仙台にあります。仙台の事務局さんは、事務局の仕事をしているだけであって、地方のニーズまで捉えているかという、私はそう思っておりません。ですからもうちょっと広い視点で考えていただきたいなと思っております。まず、どちらかという事務局というよりも、企業の方に聞いていただいたほうが、本当のニーズが出てくるのではないかと思っております。特に先ほど伊藤さんも話していたのですが、県北の方ですね、高校卒業生が人材なのです。大学は県北で一番北のほうは宮城大、あとは専修大ですかね。その辺が宮城県の大学の一番北側なのです。それより以北というのが、職業訓練大学校ですか、それ以外はないですよ。高校卒業生を採用するしかないという状況なものですから、地方の企業のニーズというのは中央では全然取れるものではないと思います。県で、自動車産業の推進ということで色々な企業が県北に集積していますよね。昨日、一昨日あたりも移転の話があって百何十人採用するということがありました。今県北の方の求人倍率が2倍、3倍にまで上がってきている状況で、もうちょっと地方のニーズを掴めるような調査をしていただきたいなと思っております。特に県立ということなのでよろしく願いいたします。

**【本図会長】**

ここも、今回は予定ということで、学校調査からは産業系のところは抜いてということですので、御意見を踏まえてということ。

**【事務局（佐々木教育企画室長）】**

今、会長からお話があったとおり、今日ここで資料としてお伝えした調査項目とは別に行いますということがお伝えしたかった本旨でございまして、正直申し上げましてどの団体にいつお邪魔するかということについてはこれからでございます。

**【本図会長】**

せっかく皆様おられますので、是非また揉んでいきたいと思いますが、今回の8月18日、9月15日というのはあくまでもアンケート調査をやるとしたらという学校に負担をかけないところでの実施ということによろしいですね。

**【高橋教育長】**

少し補足をさせていただきます。資料4の裏面にスケジュールの予定がございます。その中で8、9月でアンケートあるいは関係団体への調査ということで予定をしておりました。それで今日の審議会に臨んだわけですが、まず、アンケート自体について、項目の精度を更に高める必要があるということ、それから、20歳あるいは24歳。これは20歳は市町村で成人式があるものですから捉えやすいかと思って聞いておりました。そういったところへのアンケートの実施等々ですね、御意見をいただきましたので、それを踏まえて、会長、副会長に御相談しながら、項目を改善したもので実施をしたいと考えております。そうすると本日お示したスケジュール、このアンケートの実施もですね、少し後ろにずれこむ可能性があるということで、御理解いただければということが一点。それから産業系団体への訪問調査についてですが、これは今、室長からお答えしたように、例えば経済同友会であるとか商工会議所であるとか中小企業の経営者の会であるとか工業会であるとか、そういったところという思いがあるのですが、今、片瀬委員から、事務局サイドよりは企業サイドの方がいいだろうというお話も頂戴しているところです。そうしますと、事務局に御相談をしてどこか推薦していただける企業に当たっていくというような、もうひとつステップを踏んだ手続きを取りながら調査をしていきたいと。今日の議論の中でこれも修正しなければならぬと思っております。ですから、現時点ではこういうスケジュール感を持っていましたけれども、本日の審議会での御意見を頂戴して、少し後ろに日程をずらすことも含めて調整をさせていただきたいということで御理解いただければと思います。

**【本図会長】**

はい、ありがとうございました。では、皆様から大変建設的な意見をいただいておりますので、これらを反映させてということで。

半澤委員お願いします。

### 【半澤委員】

高校生の保護者対象ということで、アンケートの中の（12）のところ、県立高校と地域の連携を深めるための取組についてということで、設問が3つまでお選びくださいということであったのですが、このところで是非追加していただきたいと思ったのが、もし取り組んでいる事例などがあったら記載していただくというのはどうかなと思いました。というのはですね、先日東北P大会、高P連の大会がありまして、宮城県以外の岩手県であるとか山形県から事例発表があったのですが、その中で大変素晴らしい取組があって、地元企業と高校の卒業生が、卒業する3年生、就職するであろう3年生に向けて、社会とはこういうものだよというようなことを寸劇で卒業生に送るといった形の事例発表があったのです。私たち見ている側も非常に素晴らしいなと思って見させていただきました。こういった色々な事例があるのではないかなと思うので、是非こういった事例が書けるような形になっているといいのかなと思ったのが一つ。それと、前期後期という高校入試の形になってから保護者の中では様々な意見が出ていて、良い意味でも悪い意味でも子供たちが右往左往している姿をここ何年か見てまいりました。そういうものもあったので、是非設問の中に、高校の入試制度についての意見を聞く質問もあっていいのかなと思っています。PTAの中でもこのような意見が出てきていることもあるので、色々な意見があると思うので、是非こういったニーズについても取り上げていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

### 【本図会長】

はい、ありがとうございます。本明委員お願いします。

### 【本明委員】

かなり読ませていただいてここに参加したわけですがけれども、アンケートについては日程が決まっていたので、変更がないのかなと思っていました。過去のアンケートの関係があって、この内容にしたのかなと感じましたので。ただ内容的に（7）というのは難しいのではないかなとか。保護者に対してはいらぬのではないかなと思ったりする場所もありました。つまり何のために聞くのかなということです。例えば普通科は多かったけれども、農業学科はゼロだったら、農業学科は作らないのかなと、そういうふうにはならないと思うのですが。だから、県の考え方というものも非常に大切だと思います。7月24日の日本教育新聞に全国商業学校長協会の会長の記事が載せてあるんです。そこでは、「商業高校の数は減少の一途で募集対策に苦慮している、普通科の大学進学者は卒業を機にそのまま地元を離れてしまうことが多い、地元に残り地域の経済活動を支えているのは、専門高校卒業生であることに地域や学校が気づき始めた。」と書いてあるのです。全くそのとおりだと思います。だから残していかななくてはならないものは残しておかなくてはならない。アンケートでというのはどうなのかなというのが率直な意見です。こういったとこ

ろで話すことが良いのではないかと私は思いましたので話させていただきました。以上です。

**【本図会長】**

はい，高橋教育長。

**【高橋教育長】**

今，お二人から大変重要な御意見をいただきました。ありがとうございました。本明先生がおっしゃられました，何のために取るのかという部分ですね，様々な方から御意見いただきましたので，その部分を再度確認した上で，どういったターゲットに対してどういう目的でデータを取ろうとするのかを確認した上で，項目の精査をして会長，副会長に御相談したいと思います。出てきたデータをここで活用しなければならない。逆に，ここであまり活用できないものもあるかもしれない。そこも含めて，これまでの時には取っていたからということで入れているものもあるかもしれませんので，取捨選択を更にしたと思います。実際にやっている取組事例も，これは参考になるものですので，そういったものも含め。なお高校入試は，様々な御意見があったので，今回一本化する方向で固めました。新しい入試については，今年度中に具体的なものをお示しできるように，そこまで進んできましたので，これは別の審議会で御報告しながら進めていきたいと思っておりますので，今回のアンケートからは外させていただきたいと思っております。

**【本図会長】**

よろしいでしょうか。

**【佐々木委員】**

この保護者アンケート，また子供たちへのアンケートなのですが，これは県立の学校を必ず受けますよという前提でアンケートしていると思うのですがけれども，最初から私立を受けるお子さんもいらっしゃると思うのですね。このアンケートだけを見ますと，国公立を必ず選択しなくてはいけないのかなというアンケートになっていると思うので，そういう子じゃない子も書けるようなアンケートの内容にさせていただきたいなと思っておりました。もし，県立の高校を受けるとしたら，とか。受けるではなく受けるとしたらというアンケートにさせていただいたら良いのではないかとということと，私立の学校の意見を聞いてみては如何なのかなと思いました。国公立に行っている方だけではなく，中高一貫に行っている方に対して，行って見てどうですかという意見もあれば，中高一貫の良いところなども聞けるのではないかと思いました。是非取り入れていただければと思います。

### 【御手洗委員】

アンケートの質問項目を再考されるということであれば、このような視点もあって良いのではないかという視点で提案です。まず、高校生向けの質問については、とてもシンプルですけれども、学校の勉強をちゃんと分かっているか、ということと将来への夢はあるか、イメージがついているか、ということはとても基礎的なことですけれども、聞くべきではないかと思います。学校の勉強をちゃんと分かっているかということについて、これをちゃんと聞いた方が良いと思うのは、実は小学校高学年とか中学校くらいでつまづいて、もう入った瞬間からずっと分かっていないというようなこともあるように見受けられます。例えば気仙沼高校の子たちの例ですと、数学、ワークといわれるものをやっています。あれだと、学校の試験なら点数が取れると。なぜなら数学も暗記でやっているからです。ワークからそのまま出るから暗記している。ワークで90点取っている子が模試では20点台なのです。これは多分分かっていないということで、そうすると教え方も見直さなくてははいけませんし、そこから大学入るだとか、社会に出るといときに、大きな困難を伴うこととなると思いますので、把握すべきことかなと。また、将来の夢があるかということについてちゃんと聞いた方が良いと思うのは、なりたいものがあれば頑張れるのですけれども、そうではなくて勉強しろと言われてもやらないですし、頑張る力も出てこないで、このイメージがついているかということは非常に重要なことかなと思います。先ほどのアンケートの対象と目的についてなのですが、個人的な意見ですが、現在、通われている人に対しては菊地先生もおっしゃられるように現状把握が目的になり、ニーズというのはやはり使ってみないと分からないということもありますので、卒業生対象になるのではないかと。特にまだ若くて抽象的な思考が難しい子供に対してニーズを聞くというのは、マーケティング的な観点から言っても非常に困難というか、ほぼ無理だと個人的には思うので、行っていない子、まだこれから通う子や今通っている子にニーズを聞くということは、コンセプティックにそもそも無茶があると思います。それから先ほど卒業生対象で、20歳は成人式があるからということで取りやすいということを言われていましたけれども、個人的には社会に出ている子、大学を卒業して社会に出ている子に聞くということが非常に重要かと思っています。というのは、多くの県立高校で例えば進学率100%を掲げていたりしますけれども、偏差値50以下だと全然就職できていなかったりしますから、24歳くらいで初めて辛いつて思うのですよ。そこまで捕捉しないと、正直、東京でこちらの出身の子に会ってみると、大学は出たけれどキャバ嬢みたいな子はいっぱいいますから。ちゃんとそこまで捕捉しないといけないと思いますので、20歳だけではなくて大学卒業した子がどうなっているかということについて、きちんと捕捉すべきであると思います。

### 【本図会長】

はい。伊藤（宣）委員お願いします。

### 【伊藤（宣）委員】

私、今、御手洗さんのお話を聞いていて、本当にそうだなと思いました。今、社会の第一線で働いていらっしゃる保護者の方々に学校教育についてどんなことを求めますかという内容を企業が調査したら、内容が大きく変化したのですよね。保護者の方々が子供の通う学校に学校教育でどんな力をつけてほしいのかというその調査の結果が大きく変わっている。ということは、社会で必要とされる力を親御さんたちも実感していらっしゃるのだと思います。2006年に経済産業省が社会人の基礎力ということで発表しましたよね。社会人の基礎力というところの発表内容が、今、教育改革として大きなうねりとして動いていると思います。柴山先生の先ほどの話の中にもそれは出ていたなと思います。ですので、やはり高校を卒業して社会の第一線で働いている宮城県の若者たちがどうなのかなということ、これからの10年間の県立高校将来構想の非常に重要な資料として活かされるべきではないかと思います。それから、私学の立場も話してくださいましたけれども、宮城県には私立学校で学ぶ子供たち、公立学校で学ぶ子供たちがいますよね。でも私学は私学、県立は県立、お互いに良さを引き出し合いながら、宮城の子供たちの底力をつけるということで教育長さんがいつもおっしゃっております。公立私立ともに、宮城の子供たちを育てよう。そういうお心をお持ちでいらっしゃるということを私はよく理解しておりますので、この立場に座らせていただきました。本当に、時代はものすごい勢いで変わっていますよね。今後10年間の将来構想ということを見ると、もう10年ということは、小学校の子供たちが高校に行って学ぶ、その時代に宮城の教育がどうなっていなければならないのか、と。10年たったらどう変わりますか。社会の在り方がこんなに変わるんですよという、世界の学者さんたちが、その変化の全貌を見せていますよね。というところでは、本当に幅広く、深く考察しながら、宮城の教育が世界に対応できる教育であるような形にしていかなければと思っております。

### 【本図会長】

はい、ありがとうございます。時間が迫ってまいりまして、まだ御発言されていない方で、調査についてこうすればいいのではないかという御意見ございますでしょうか。

### 【境委員】

調査の内容ですけれども、各委員さんからお話が出ていた学びに対しての成就感、将来の夢とかそういう内容は高校教育課や義務教育課でもデータをお持ちであったと思います。主旨をもう一度確認していただいて、敢えてこの調査に余計な項目は加えない方が良く思っております。義務教育の場合ですと、全国学力学習調査の中に、現在の授業の様子とかあるいは将来の夢というところでも調査項目がありますので、各市町村の教育委員会でもデータを使って市町村の義務教育に役立てているところもありますので、それを活用していただければと思っております。ただ今回の調査で、中学2年生の対象で果たしていい

のかどうか。ある程度の県立高校の学科の希望は、中学校の学習状況をみれば、直近の中学3年生が選択をする時期にこの調査をしたほうが生のデータが取れるのではと。なぜこの高校を選ぶのですかという選択肢をぶつけてみるというのも一つの方法論ではないかと思えます。中学2年生では、まだ具体的に本当に高校の中身を分かって、学習して、というところまでたどりついていないのではないかと。2年生の後半にも様々なことを学習していきますので、そういう意味では、中3対象で、9月、10月くらいであれば可能なのではないかと考えております。以上です。

**【本図会長】**

はい、ありがとうございました。中学校3年生を対象にしてはという御意見が出ました。では、他に、如何でしょうか。大内先生。

**【大内委員】**

登米市の現状をお話しますと、中高連絡会の情報になりますが、登米市内の中学3年生が、管外に出て行ってしまう割合は、今年の高校1年生では38%くらいになっています。地元の子供たちは地元で育てたいということで、登米市内の高校3校は、頑張っているのですが、やはりそういう厳しい現実があります。その辺の理由が是非このアンケートから汲み取られれば良いなと思っております。それから高校2年生のアンケートについても、学科を指定して男女各10名ということではなく、是非、学科ごとにクラスの生徒全員を対象にしてほしいと思えます。クラスの中でも成績の良い子もいますし、輪切りで入学してくる子もいます。対象生徒の選び方でデータにも大きく影響すると思えますので、できれば学科全員のデータをとっていただくと、色々なデータが見えるのではないかと考えております。以上です。

**【本図会長】**

これも是非検討していきたいところですね。他に如何でしょうか。よろしいでしょうか。

**【高橋教育長】**

大変たくさんのお意見ありがとうございました。こんなに意見が出るとは思っておりませんでした。本当に一生懸命見ていただいて、こういうふうになればということで御意見を頂戴してありがとうございました。頂戴した御意見すべてを叶えることは難しいかもしれませんが、主旨をしっかりと踏まえて、可能なところを活かしてここにデータとしてまとめられるようにしたいと思います。あと、境委員からもありましたが、他にデータがあるところはそれを補ってここで示すことにさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

### 【本図会長】

ありがとうございました。事務局で頑張ってくださいこの素案を早めに出していただいたおかげで、皆がじっくり読んで大変実のある御意見をいただきましたと思います。どうもありがとうございました。事務局からは、何かありますか。高橋教育長のおまとめということでもよろしいでしょうか。

それでは、私のお預かりした議事については以上ということで、事務局にお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。

## 5 その他

### 【司会】

本図会長，ありがとうございました。

限られた時間の中で貴重な御意見を賜りありがとうございました。なお本日，お時間の都合でお話しただけなかった御意見等ございましたら，お手元にお配りしております用紙に御記入の上，8月4日（金）までに事務局宛てに御連絡くださいますようお願いしたいと思います。

最後に，次回の審議会の日程でございます。次回は10月の下旬を予定しております。委員の皆様には日程の照会をした上で，会長，副会長と相談ののち，事務局からできるだけ早く御連絡したいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

## 6 閉会

### 【司会】

それでは，以上をもちまして第1回県立高等学校将来構想審議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。